



IM66

パイプシャフト用

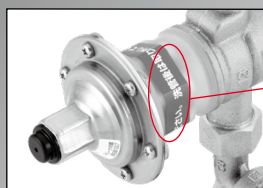
減圧弁RDⅡ付メータユニット

RMUP
RMUP・U

取扱説明書

※JWWA M-244

この度は減圧弁RDⅡ付メータユニットをお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。
 ご使用前にこの説明書をよくお読みになり、正しく工事して頂きますよう、お願い申し上げます。
 また、お読みになった後も大切に保管してください。



出荷時洗管キャップ付

⚠ 洗管と水圧検査終了後、
必ず取外してください。

洗管キャップの取扱いは、次
 ページ「ストレーナ付カート
 リッジ式減圧弁と洗管キャッ
 プの使用法」をよくお読み
 になってご使用ください。



減圧弁キャップ(別売)
 減圧が必要でない場合
 は減圧弁キャップをお使
 いくください。

ストレートめねじ
一体型アングルめねじ
一体型ボール式逆止弁
CV付

仕様

項目		呼び径		13	13L	20	25S	25
使用流体		水道水(常温)						
使用圧力		1.0 MPa 以下						
使用(適合)メーター	全長(mm)	100	165	190	210	225		
	ねじの仕様	都(普通・舶来)ねじ / 上水(協会・統一)ねじ 共用						
減圧弁 (呼び径13と呼び径20は カートリッジ共用)	種 類	二次側設定圧力 (MPa)		二次側圧力調整範囲 呼び径 範囲 (MPa)				
		RDⅡM (標準圧仕様)		0.2 / 0.25 / 0.3 (その他設定圧力は特注品)		13・20	0.2 ~ 0.3	
		RDⅢL (低圧仕様)※		ご指定ください (特注品)		25	0.15 ~ 0.3	
		RDⅢH (高圧仕様)		ご指定ください (特注品)		13・20	0.1 ~ 0.2	
						25	0.3 ~ 0.4	
	二次側設定圧力許容差範囲: ±0.02 MPa							
	定格流量(差圧0.1MPa以上) ・呼び径13: 30 ℓ/min ・呼び径20: 50 ℓ/min ・呼び径25: 85 ℓ/min							

※ 呼び径13・20は中間低圧仕様(二次側圧力調整範囲: 0.15 ~ 0.25 MPa)も用意できます。

取扱い上の注意事項

⚠ 注意

- 仕様の範囲でご使用ください。規定外での使用は、機能低下や破損の原因となります。
- 保管は直射日光や雨水を避け、器具の内部にごみやほこりが入らないようにしてください。
- 取扱い中、器具の落下等に注意してください。損傷によって漏水や故障の原因となります。
- 解氷作業などでの直火等による加熱は、漏水の原因となりますのでおやめください。

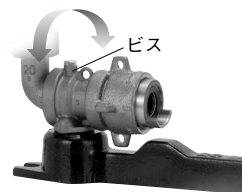
素敵な創造 ~人へ・未来へ

株式
会社

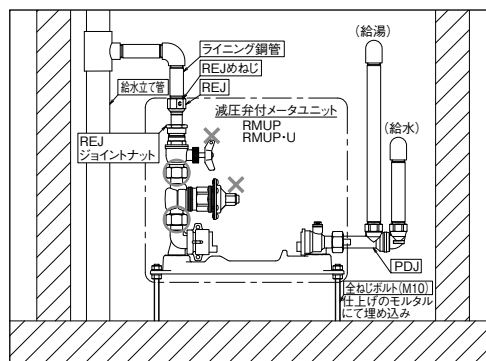
日邦バルブ

■ 設置時の注意事項

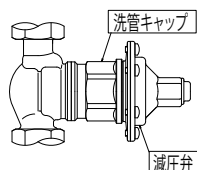
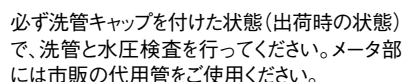
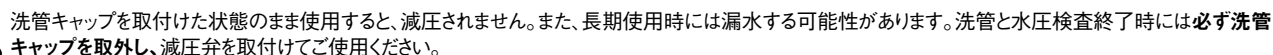
- 一次側エルボ部分回転機構付



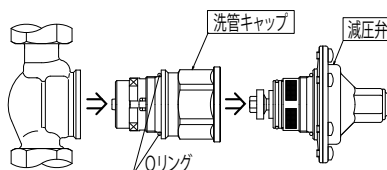
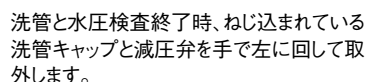
テーパねじ締付トルク (N・m)		
呼び径 13	呼び径 20	呼び径 25
20	25	30



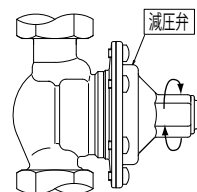
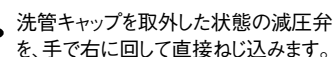
■ ストレーナ付カートリッジ式減圧弁と洗管キャップの使用方法



⚠ 洗管キャップを外し減圧弁が直接付いた状態で洗管と水圧検査を行うと、減圧弁の機能に支障をきたす恐れがあります。



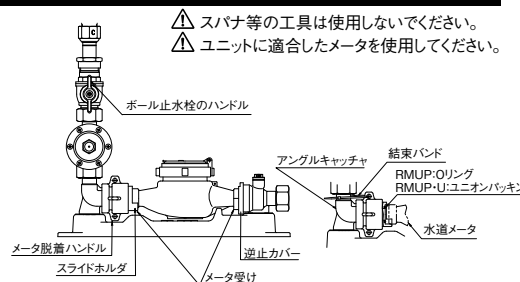
⚠ 洗管キャップを取外す際、洗管キャップに付属している
Oリングが本体側に残ってしまう場合があります。この状
態で減圧弁を取付けると、漏水する可能性があります。
必ず本体側に Oリングが残っていないことを確認の上、
減圧弁を取付けてください。



⚠ すき間があかぬよう、十分にねじ込んでください。
(締め過ぎに注意)

■ 操作

-



- 水道メータの取付けは、以下の手順を参考にして行ってください。
 1. ボール止水栓のハンドルを右に90°回して閉栓してください。
 2. メータ脱着ハンドルを手で回し、スライドホルダを後退させて、洗管と水压検査時に使用した代用管を取外してください。
 3. 水道メータの流れ方向表示をユニットの表示に合わせ、メータ受けにのせてください。
★この時、スライドホルダ及び逆止カバーにOリング(メータ圧着がOリング方式によるRMUPの場合)やユニオンパッキン(メータ圧着がユニオンパッキン方式によるRMUP・Uの場合)が装着されていることを確認してください。
 4. メータ脱着ハンドルを手で回し、スライドホルダを前進させ、水道メータに確実に圧着させてください。
 5. ボール止水栓のハンドルを左に90°水撃が発生しないようゆっくり回して開栓し、メータ圧着部及びスライドホルダ・メータ脱着ハンドル嵌合部より漏水等の異常のないことを確認してください。
 6. 緩み防止として、メータ脱着ハンドルを締める方向に、アングルキャッチャとメータ脱着ハンドルを、付属の結束バンドで結んでください。
- △メータ交換時には、パッキン類の交換をお勧めいたします。

注意 (メータ圧着のOリング・ユニオンパッキンについて)

- Oリング式にユニオンパッキンを(ユニオンパッキン式にOリングを)入れないでください。
- メータ交換の際は、下記の指定品をご使用ください。

■メータ受けのOリング(RMUPの場合) mm

呼び径	規格・呼び	内径	線径
13,13L	P-16 (JASO 2016)	15.8	2.4
20	JASO 2023	23.3	2.4
25,25S	JASO 2030	29.7	2.4

■メータ受けのユニオンパッキン(RMUP・Uの場合) mm

材質・種類	NBR, 1種 A-70
呼び径	
13,13L	φ24×φ14×3
20	φ30×φ21×3
25,25S	φ38×φ26×3

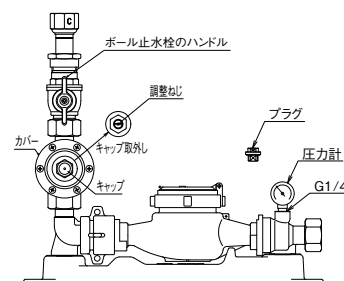
- 上水(統一・協会)ねじ/都(普通・舶来)ねじ 共用

メンテナンス

- 減圧弁や逆止弁のメンテナンスを行う場合には、以下の事項を参考に作業を行ってください。

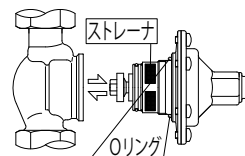
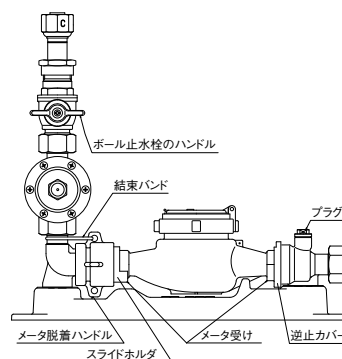
〔減圧弁 二次側圧力の点検と調整方法〕

1. ボール止水栓のハンドルを右に90°回して閉栓します。
2. 逆止弁部のプラグを外し、圧力計を取付けます。なお、オプション品(別売)として「圧力検査工具(圧力計、パッキン付)」を用意しています。シールテープ不要で読取り面の向き合わせをする必要もなく、圧力計が簡単に取付けられます。また、メータの設置前に二次側圧力の点検及び調整を行う場合には「テスト孔付代用管」が便利です。その際には逆止弁部のプラグは外さないでください。
★戻り水が出ますので防水や排水処理等の処置を講じてください。
3. ボール止水栓のハンドルを左に90°水撃が発生しないようゆっくり回して開栓します。次にメータ二次側に設置されている給水栓等を開けて水を流し、空気を十分に抜いた後圧力を点検します。設定圧力を変更する必要がある場合には、次の手順で行ってください。
 - ①キャップを取外します。
 - ②調整ねじを回して圧力を調整し、設定します。右に回すと圧力が上がり、左に回すと下がります。調整の目安としては、1回転で約0.04MPa(標準圧仕様)、約0.03MPa(低圧仕様)、約0.05MPa(高圧仕様)、変動します。
 - ③圧力を安定させるため、必ずメータ二次側に設置されている給水栓等を2～3回開閉してから、圧力計にて目標の設定圧になっているか確認します。
 - ④目標の設定圧になるまで②③を繰り返し、微調整します。
 - ⑤キャップを取付けます。
4. ボール止水栓のハンドルを右に90°回して閉栓し、圧力計を外します。
5. 逆止部のプラグを締めてください。
6. ボール止水栓のハンドルを左に90°水撃が発生しないようゆっくり回して開栓し、漏水等の異常のないことを確認してください。



〔減圧弁の交換〕

1. ボール止水栓のハンドルを右に90°回して閉栓してください。
2. 二次側圧力を抜きます。
・宅内の給水栓を開けるか、逆止弁部のプラグをゆっくりと開け、二次側の圧力を抜いてください。
3. 減圧弁はカートリッジ式であり、電球交換と同じ要領で手で左に回して取外します。
(手で回らない場合は、レンチ等を使用して回してください。)
★カートリッジ式減圧弁を取外す際にはOリングが本体に残っていないことを確認してください。
4. 交換品に、砂・ゴミ等が付着しないよう注意し、所定箇所にもOリングが装着されていることを確認した上で本体に挿入し、手で右に回してしっかりねじ込んでください。
(締め過ぎに注意)
★無理にねじ込むとねじ山をつぶしてしまい、取付けができなくなります。確実に嵌合させてから、すき間が空かぬよう十分にねじ込んでください。
5. ボール止水栓のハンドルを左に90°水撃が発生しないようゆっくり回して開栓し、漏水等の異常のないことを確認する。
・ただし、二次側圧力を抜いた際に逆止弁部のプラグを開けた場合には、プラグを締めた後、ボール止水栓を開栓してください。



〔ストレーナの清掃〕

- 減圧弁を取外し、ストレーナに付着している異物を、歯ブラシ等を使用して取除きます。

〔逆止弁の清掃・交換〕

- 逆止弁の性能を維持するために点検や部品交換が必要です。
ボールリフト式逆止弁CVの場合は上部キャップを、また、単式逆止弁PCVの場合はメータ受けを外し逆止カバーを回すと、逆止カートリッジが取出せ、清掃・交換ができます。



■スライドホルダのメンテナンスについて ※

※弊社ホームページに詳しい方法を掲載しています

①「■操 作」に従い、所定の手順でメータを取外してください。

②スライドホルダをメータ脱着ハンドル（ロックナット）内から取外します。

- ・メータ脱着ハンドルを「S」の矢印の方向に手で回していくとスライドホルダが前進して（せり出して）きます。【図A】
- ・そこからスライドホルダを押さえつつ、更にメータ脱着ハンドルを「S」の矢印の方向に手で回し、完全にねじの嵌合を外してスライドホルダを取外します。【図B】
- ・スライドホルダを手に取ります。内面（摺動部）に1本ないし2本のOリングが見えます。【図C】

③スライドホルダ内のメンテナンスを行います。

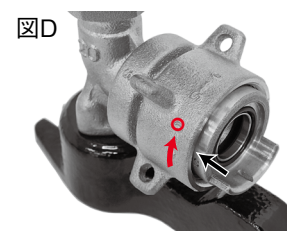
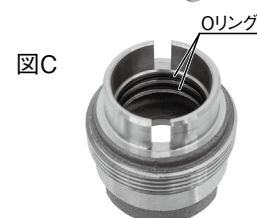
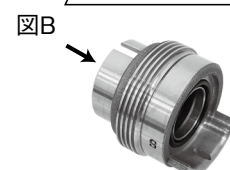
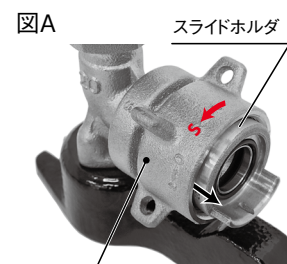
- ・摺動部、Oリングに付着した異物や堆積物をウエスや綿棒等で拭き取ってください。
- ・Oリングに付着した異物や堆積物を拭き取ることができない場合、また破損が認められた場合はOリングを新品のものと交換してください。

④異常を取除いたのち、②と反対の手順にてスライドホルダをメータ脱着ハンドル（ロックナット）内に戻します。

- ・スライドホルダが傷付かないよう、ゆっくりと慎重にスライドホルダをメータ脱着ハンドル（ロックナット）内へ嵌入し、ねじを嵌合させてメータ脱着ハンドルを「O」の矢印の方向に手で回してスライドホルダを後退させ（引込ませ）ます。【図D】

※注意事項：「■操 作」の◎をご参照ください。

⑤「■操 作」に従い、所定の手順でメータを取付けてください。



⚠ 注 意 （スライドホルダ内面のOリングについて）

- スライドホルダ内面のOリングを新品のものと交換する際は、下表のOリングを使用し（弊社販売品推奨）、グリスを塗布してください。

■スライドホルダ内面のOリング

呼び径	規格	呼び番号	内径	太さ
13	JIS B 2401	P20	19.8±0.22	2.4±0.09
20	JASO F404	2026	26.2±0.15	2.4±0.07
25	JIS B 2401	P34	33.7±0.33	3.5±0.10



株式会社

素敵な創造 ～人へ・未来へ

日邦バルブ

本社 松本工場 〒399-8750 松本市笹賀3046

北海道工場 〒059-1362 苫小牧市柏原6-120

<https://www.nippov.co.jp/>



お問い合わせ先

東京支店 TEL.03-5338-2231 FAX.03-5338-2230
札幌営業所 TEL.011-232-0471 FAX.011-208-2260
仙台営業所 TEL.022-213-3177 FAX.022-213-3266
北関東営業所 TEL.0283-22-7547 FAX.0283-20-1069
神奈川営業所 TEL.042-741-7121 FAX.042-765-7157

松本営業所 TEL.0263-50-5221 FAX.0263-50-5222
名古屋営業所 TEL.052-735-6511 FAX.052-735-6510
大阪営業所 TEL.06-6210-2563 FAX.06-6210-2564
広島営業所 TEL.082-232-8117 FAX.082-232-8053
福岡営業所 TEL.092-472-5128 FAX.092-477-2057

ISO 9001・14001 認証取得

この説明書に記載した内容は予告なく変更することがあります。

また、許容差のない数値は標準値を示します。呼び寸法・呼び径と実寸法とは同一ではありません。

IM66 2211K